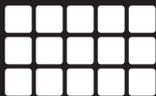


D-POWER 1
D-POWER 05

取扱説明書



安全上の ご注意

■安全上のご注意

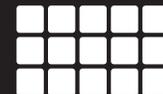
取扱説明書には、お使いになる方や他の人々への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための、重要な内容を記載しています。次の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。また、お読みになった後は、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

- 注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告	この表示内容を見逃して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示内容を見逃して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- ・ パワーアンプは、機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。バランスが崩れて落下すると、けがの原因となります。
- ・ 必ず付属の電源コードを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因になり大変危険です。また、付属の電源コードを他の製品で使用しないでください。
- ・ AC100V、50Hz/60Hz の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- ・ 分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- ・ 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・ 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、本体や電源コード・プラグが破損した等の異常があるときは、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- ・  SPEAKONコネクタの横にあるこのシンボルは、ここには非常に高い電圧の信号が出力されていることを示しています。端子や芯線を露出させたまま使用しないでください。



注意

- ・万一、落として破損が生じた場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- ・以下のような場所には設置しないでください。
直射日光の当たる場所/極度の低温または高温の場所/
湿気の多い場所/ほこりの多い場所/振動の多い場所/
風通しの悪い場所
- ・配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- ・電源を入れる前や音声ケーブルの接続時には、各ボリュームを最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となることがあります。
- ・ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- ・廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。

■使用上のご注意

取り扱いおよび移動について

性能・耐久性をより長く維持するために以下の点にご注意ください。

- ・移動の際には、丈夫なラックやフライトケースに入れてください。
- ・ラックやフライトケースから取り出す場合は、各つまみやコネクター部を持ったり衝撃を与えないように十分注意してください。
- ・すべての配線を取り外してから、移動してください。
- ・外装を、ベンジンやシンナーなどで拭かないでください。変質や塗料がはげる原因となることがあります。外装のお手入れには、乾いた柔らかい布をご使用ください。

設置について

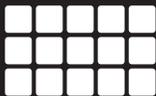
- ・高電圧送電ケーブルやブラウン管、テープレコーダー、携帯電話などの強電磁界付近への設置は避けてください。外部からの誘導電界は、音声回路に悪影響を与えます。
- ・放熱が良い環境で使用してください。また暖房機や熱を発生する物の側には設置しないでください。ラックやフライトケース等に収納して使用する場合は、通気スペースを十分に取ってください。その際、吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。
- ・電源コードを踏んだり、もので挟んだりしないように注意してください。

信号レベルについて

各入出力信号の仕様をご確認の上、以下の点に注意して接続を行ってください。

- ・パワーアンプへ接続する入力信号が、適切なレベルのものかどうかを確認してください。S/N 比等の特性を悪化させる原因となります。
- ・バランス入力に同相信号や高周波信号を入力しないでください。
- ・出力は、仕様に定められたインピーダンスよりも低いインピーダンスのスピーカーに接続しないでください。

使用上のご注意



目次

D-Power 05 & 1 取扱説明書 目次

■安全上のご注意	2
■使用上のご注意	3
取り扱いおよび移動について	3
設置について	3
信号レベルについて	3
1 はじめに	5
1.1 保証について	5
1.2 故障かな?と思われる症状が出たときには	5
2 D-Power 05 & 1 の概要	5
2.1 特長	5
2.2 各部名称 - 前面パネル	6
2.3 各部名称 - 背面パネル	6
2.4 出荷時設定	7
3 設置	
3.1 ラックマウント	8
3.2 冷却	8
3.3 電源	9
3.3.1 電源供給	9
3.3.2 電源スイッチ	10
3.4 配線	10
3.4.1 入力コネクタ	10
3.4.2 SPEAKONコネクタ	11

4 アンプの操作と動作	
4.1 操作	12
4.1.1 ボリューム	12
4.1.2 モード選択スイッチ	12
4.1.3 ステレオモード	12
4.1.4 モノブリッジ・モード	13
4.2 インジケータ	13
4.2.1 On LED	13
4.2.2 Signal/Protect LED	13
4.2.3 出力電流 LED	14
4.2.4 Clip LED	14
4.2.5 モノブリッジモードインジケータ	14
4.3 パワーアンプ保護システム	15
4.3.1 クリップリミッター	15
4.3.2 DCプロテクション	15
4.3.3 過電流プロテクション	15
4.3.4 温度プロテクション	15
4.4 電源の保護	15
4.4.1 突入電流リミッター	15
4.4.2 過大AC電源電圧検知	15
4.5 メインスイッチング電源保護	15
4.5.1 過電流プロテクション	15
4.6 ファン	15
4.7 フィルターの清掃	16

5 問題と対策	
5.1 症状：音が出ない	17
5.2 症状：両チャンネルが同じに鳴ってしまう	17
5.3 症状：音が歪む	17
5.4 症状：ヒスノイズ	17
5.5 症状：ハウリングが発生する	17



1 はじめに

このたびは、CAMCO D-Power 05・D-Power 1 パワーアンプをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。ご使用いただく前に必ず本書をお読みいただき、内容をよくご理解された上で正しくお使いください。

1.1 保証について

- ・お買い上げ日より6年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。ご依頼時は、本体を販売当初のパッケージに入れてお持ちください。
- ・保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買上げ店名/所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。
- ・お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買上げ店名/所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- ・改造など通常の使用範囲を超えた取り扱いによる故障や、設計製造以外の要因で起きた不都合は、期間内であっても保証の対象外となります。

1.2 故障かな?と思われる症状が出たときには

この取扱説明書をもう一度よくお読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときは、お買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

2 D-Power 05 & 1 の概要

2.1 特長

D-Power 05・D-Power 1はクラスDのパワーアンプで、以下の出力(瞬間値)を備えています。2チャンネルを備えており、ステレオ、モノブリッジのモードにすることができます。

D-Power 05	250W+250W.....ステレオ @4Ω
	125W+125W.....ステレオ @8Ω
	500Wモノブリッジ @8Ω
D-Power 1	500W+500W.....ステレオ @4Ω
	250W+250W.....ステレオ @8Ω
	1000Wモノブリッジ @8Ω

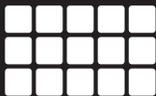
D-Power 05・D-Power 1はスイッチング電源を装備することで、重量とサイズ(2U)を大幅に削減しました。スイッチング電源を用いたことでパワーアンプの2つの対称な供給電源は、一般的なパワーアンプよりも安定しています。

D-Power 05・D-Power 1は多様なオーディオシステムでの使用を目的としたスマートでパワフルなパワーアンプです。ユーザーは使用する前に音響仕様に合わせた設定にすることができます。操作部は、前面と背面に分けて配置されており、それぞれの機能にアクセスできます。

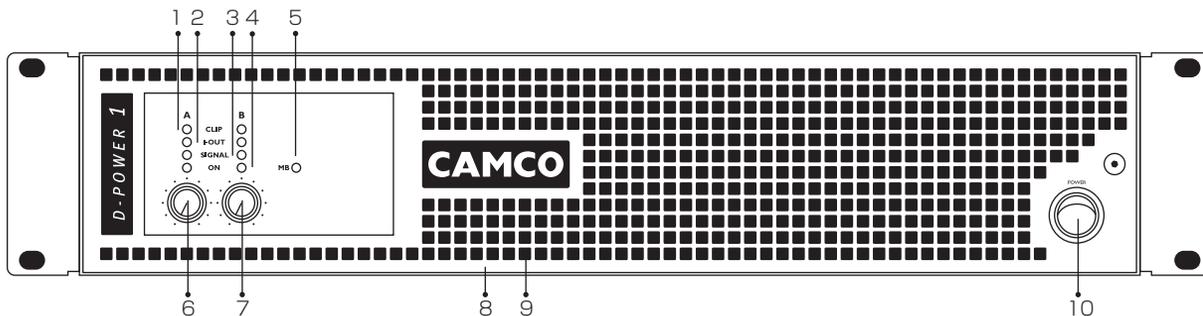
機能や操作についてご不明な点がございましたら、販売店までお問い合わせください。

1. はじめに

2. 概要



2. 概要

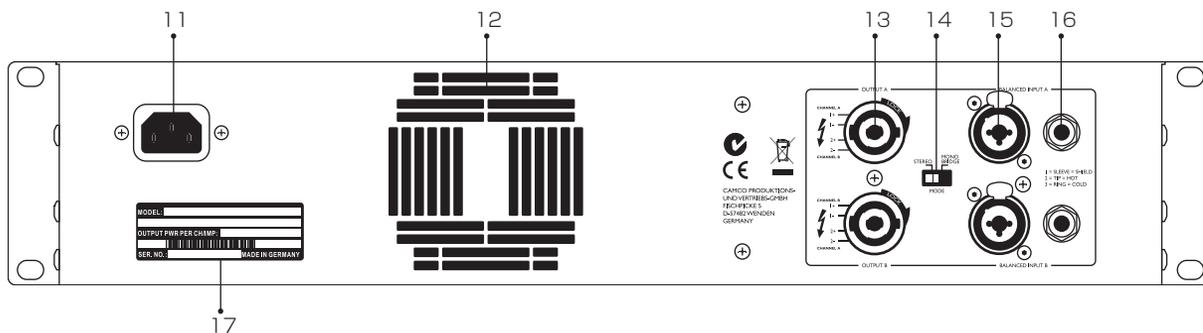


2.2 各部名称 - 前面パネル

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 Clip (クリップ) LED | 6 ボリュームつまみ Ch A |
| 2 I-Out (出力電流) LED | 7 ボリュームつまみ Ch B |
| 3 Signal (シグナル) LED | 8 エアフィルターシステム |
| 4 On (オン) LED | 9 冷却気吸気口 |
| 5 モノブリッジ・モードLED | 10 電源オン/オフスイッチ |

2.3 各部名称 - 背面パネル

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 11 AC電源コード | 16 フォーン-入力コネクター |
| 12 冷却気排気口 | 17 仕様ラベル |
| 13 SPEAKON出力コネクター | |
| 14 モード選択スイッチ | |
| 15 XLR/フォーン-入力コネクター | |

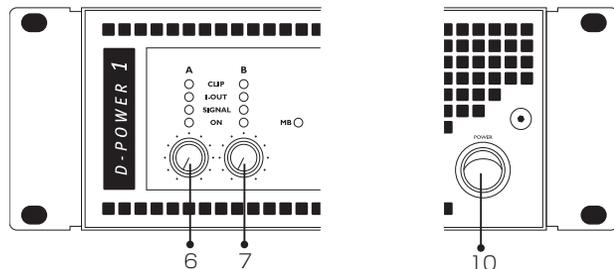




2.4 出荷時設定

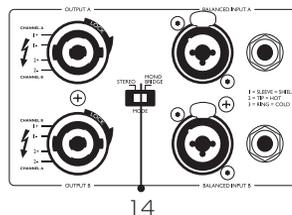
D-Power 05 & 1 の出荷時の初期設定です。

前面パネル



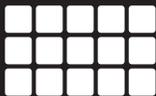
- 6 ボリュームつまみ Ch A.....最小値
- 7 ボリュームつまみ Ch B.....最小値
- 10 電源オン/オフスイッチ.....オフ

背面パネル



- 14 モード選択スイッチ.....STEREO(2チャンネル)

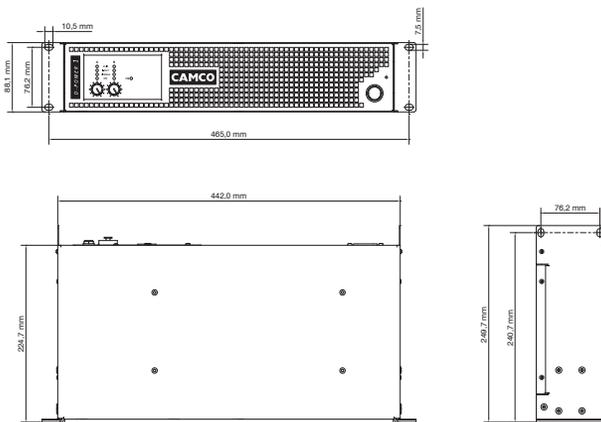
2. 概要



3. 設置

3.1 ラックマウント

パワーアンプをラックにマウントする場合には、ワッシャーとネジを使用して正面パネルの4点で固定します。

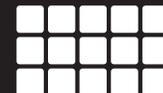


3.2 冷却

本パワーアンプを通常の状態で使用する場合には、オーバーヒートする可能性はありません。パワーアンプは内部のヒートシンクに受動冷却を使用しています。温度が約60度上昇した時のみファンにスイッチが入ります。ファンが動作しているときは、冷却用の空気は正面から吸入され背面から排気されます。パワーアンプが動作しているときには、空気が自由に循環するようにしておかなければなりません。

冷却効率はまわりの環境(通気の悪いラック、直射日光など)や、前面パネルに装着されたエアフィルターの汚れ具合などの影響を受けますので、配慮が必要です。

もしパワーアンプをケースに収容する場合には、背面の空間の容積は最低140cm²が必要です。この空間はパワーアンプの直後になければなりません。さもなければ、ケースにはファンなどの強制換気装置を設置しなければなりません。

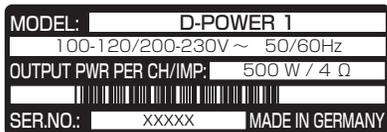
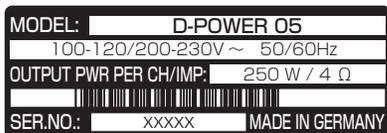


3.3 電源

3.3.1 電源供給

パワーアンプの設置や接続作業を行うときには、必ず電源プラグは抜いてください。

本体の背面にある仕様ラベルで指定された電圧の電源で動作しますので、必ず指定された電圧の電源に接続してください。(日本仕様：AC100V、50/60Hz)



仕様ラベルは本体の背面にあります。

異なるAC電圧時に、4Ω負荷、定格出力の1/8で両チャンネルを駆動したときの電流と消費電力 (ピンクノイズ、クレストファクター 12dB、音楽ソース)

	AC電圧	AC周波数	AC電流	消費電力
D-POWER 05	100 V	50/60 Hz	1,80 A	120 W
D-POWER 05	120 V	50/60 Hz	1,55 A	120 W
D-POWER 05	200 V	50/60 Hz	1,15 A	120 W
D-POWER 05	230 V	50/60 Hz	1,00 A	120 W
D-POWER 1	100 V	50/60 Hz	2,90 A	200 W
D-POWER 1	120 V	50/60 Hz	2,60 A	200 W
D-POWER 1	200 V	50/60 Hz	1,75 A	200 W
D-POWER 1	230 V	50/60 Hz	1,60 A	200 W

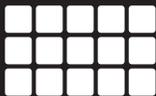
【参照】

230V、50Hz時に、4Ω負荷、異なる出力で両チャンネルを駆動したときの電流と消費電力 (ピンクノイズ、クレストファクター 12dB、音楽ソース)

操作環境	AC電流	消費電力	出力
アイドル(電源On)	0,3 A	23 W	0 W
32W/ch	1 A	120 W	64 W
63W/ch	1,6 A	200 W	126 W
125W/ch※	2,7 A	350 W	250 W
200W/ch※	3,9 A	530 W	400 W

※: 温度リミッターによる持続制限

3. 設置



3. 設置

3.3.2 電源スイッチ

電源スイッチは、前面パネルの右下にあります。アンプをオンにするためには、スイッチの上部を押します。電源が入ると、両チャンネルのClip LEDとSignal LEDが2-3秒赤く点灯します。アンプをオフにするには、スイッチの下部を押します。



電源スイッチをオンにすると起動し、2-3秒後にアンプが作動し始めます。

雷が発生したとき、パワーアンプを使用しないとき、長期に渡って管理者が不在なときには電源プラグは抜いておきます。または、アンプと電源間の全ての接続を外しておきます。

パワーアンプのスイッチがオンのときに停電となった場合、電源が復旧すると自動的に再起動します。停電前の設定はすべて保たれます。



電源コードのアース端子は、必ずアースに接続してください。

3.4 配線

3.4.1 入力コネクター

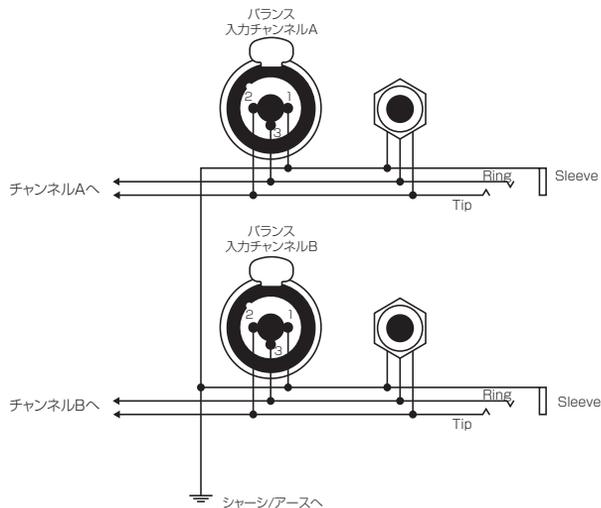
XLR/フォーン-入力コネクター：

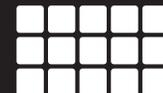
- Pin1 グランド
- Pin2 ホット(+)
- Pin3 コールド(-)

フォーン-入力コネクター：

- Pin1 グランド
- Pin2 ホット(+)
- Pin3 コールド(-)

接続にはシールド付きのバランスケーブルを使用してください。

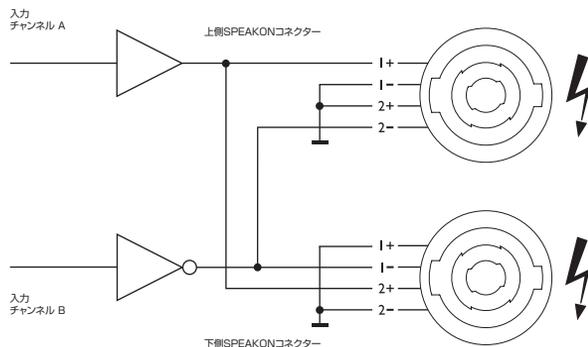




3.4.2 SPEAKONコネクター

SPEAKONコネクターは、チャンネルA、Bの出力を接続します。
SPEAKONコネクターの各端子には次のように接続します。

上側のコネクター	Pin1 +	チャンネルA	シグナル
	Pin1 -	チャンネルA	グラウンド
	Pin2 +	チャンネルB	グラウンド
	Pin2 -	チャンネルB	シグナル
下側のコネクター	Pin1 +	チャンネルB	グラウンド
	Pin1 -	チャンネルB	シグナル
	Pin2 +	チャンネルA	シグナル
	Pin2 -	チャンネルA	グラウンド



注意：チャンネルBの出力は逆相になっています。アンプ出力のホットがSPEAKONコネクターと逆になるように接続します。ケーブルや他の機器がアンプの出力段をショートさせるおそれがあるので、この接続をスピーカー内部のグラウンドまたはアースに接続します。

注意：

SPEAKONコネクターの雷マークは命に関わる高電圧が存在することを示しています。

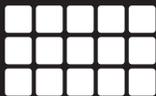
この端子の配線は資格を持った人間が扱うか、あるいは完成品として供給されてるケーブルを購入してください。

特別な配線を行う場合は資格を持った人間に依頼してください。

感電を防止するため端子や芯線が露出した状態でパワーアンプを動作させてはいけません。

注意：安全と音質を考慮して、完全に絶縁が施された標準的な銅線のみを使用してください。予算と物理的制約が許す限り、できるだけ太いものを使用し、必要以上に長くしないようにします。

3. 設置

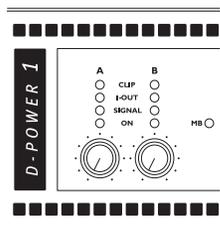


4. アンプの 操作と動作

4.1 操作

4.1.1 ボリューム

各チャンネルの音量は41段ごみのボリュームつまみにより調整されます。この設定は人間の聴覚特性(対数変化)に合わせてありますので、用途に合わせた最適な範囲に設定することが可能です。各チャンネルはそれぞれ独立した調整ができます。モノモードのときはチャンネルAのボリュームコントロールのみが使用されます。

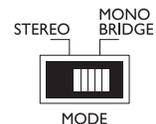


アンプの電源をオンにする前にボリュームは最小に絞りを、突然の大音量で耳やスピーカーに障害を与えないようにします。

注意：入力レベルが+6dBuを超えるとクロストークが発生します。その際、Clip LEDが点灯するとは限りません。使用環境によっては問題となる可能性がありますので、ご注意ください。

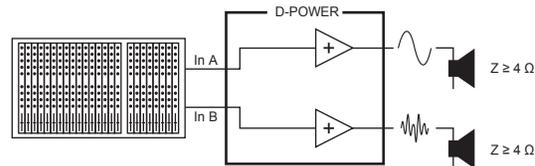
4.1.2 モード選択スイッチ

背面パネルにあるMODEスイッチはアンプの動作モードをステレオ(2チャンネル)とモノブリッジに切り替えます。



4.1.3 ステレオモード

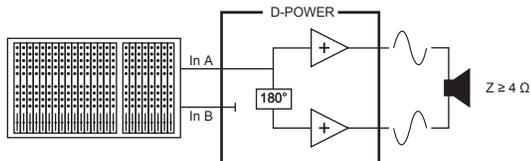
MODEスイッチをSTEREOにすると、アンプの両チャンネルは完全に独立したステレオ動作となります(通常の動作モード)。





4.1.4 モノブリッジ・モード

MODEスイッチをBRIDGEにすると、1チャンネルのモノブリッジで動作となります。



両チャンネルには同じ入力信号が送られますが、片一方は逆相にされます。負荷(1Ch)は両チャンネルの出力の+間に、適切に配線されたSPEAKONケーブルで接続します(以下参照)。ステレオモードと比較すると、アンプのトータルでのパワーは同じですが、出力電圧と接続可能な最低インピーダンスの値は共に倍となります。入力はチャンネルAのみ使用されます。チャンネルBの入力は使用されませんので、ボリュームは最小にしておきます。

スピーカーをモノブリッジに接続するときは常に以下のように取り付けてください。

Pin1+ と Pin2-を上のスピコンに または
Pin2+ と Pin1-を下のスピコンコネクタに

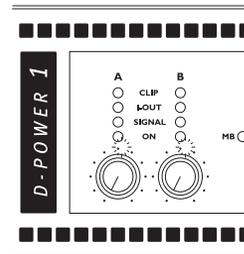
3.4.2 SPEAKONコネクタ を参照してください。

注意：モノブリッジ・モードでは出力電圧は125Vrmsにも達します。スピーカーの接続に使用するケーブルの耐圧規格が条件を満たしていることを確認してください。ケーブルの製作は資格を持った供給メーカー、人間に依頼してください。

4.2 インジケータ

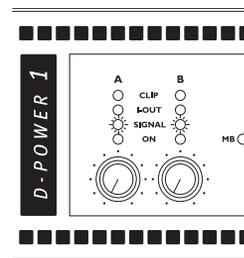
4.2.1 On LED

通常の動作時にはアンプが起動したのち緑色のOn LEDが点灯し続けます。

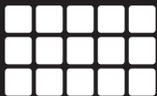


4.2.2 Signal/Protect LED

緑色のSignal LEDは出力の電圧がおよそ4Vになると点灯します。これは4Ωの負荷でおよそ4Wに相当します。チャンネルごとのSignal LEDは、出力の継続的なDC電圧や過熱などによりアンプがプロテクトモード(Mute)になると赤く点灯します。



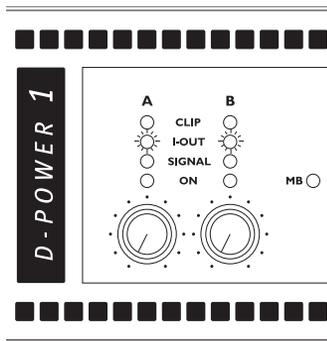
4. アンプの 操作と動作



4. アンプの 操作と動作

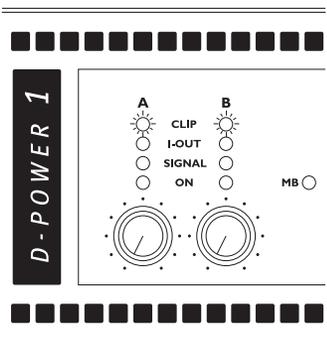
4.2.3 出力電流 LED

LEDの明るさは、各チャンネルの出力電流に比例します。



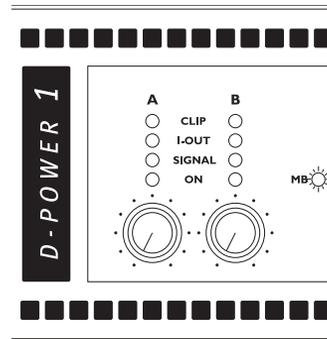
4.2.4 Clip LED

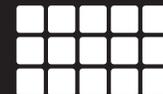
クリップの程度に応じてオレンジと赤の2色のLEDで表示します。軽いクリップはオレンジ、赤はクリップが激しいことを表示しています。



4.2.5 モノブリッジモードインジケータ

フロントパネルにモノブリッジモードを示す黄色のLEDがあります。モノブリッジのときは MB LEDが点灯します。ステレオモード(2チャンネル)のときは、点灯しません。





4.3 パワーアンプ保護システム

4.3.1 クリップリミッター

パワーアンプが過負荷となった場合、オーディオクリップを減少させるため、クリップリミッターが自動的に出力レベルを減少させます。

4.3.2 DCプロテクション

パワーアンプの各出力のDC電圧レベルは常に監視されています。もしDC電圧が3Vを超えた場合には、チャンネル出力はミュートされます。もしDCが一瞬検知されただけならば、アンプはミュートを解除し通常に動作します。

4.3.3 過電流プロテクション

過電流は常に出力段で制御されています。

4.3.4 温度プロテクション

アンプのヒートシンク内に設置されたセンサーが常に温度を監視しています。ヒートシンク上の温度が85度を超えたことを検知した場合には、そのチャンネルの信号レベルを減少させます。温度が95度を超えた場合にはスイッチング電源は遮断されます。

注意：通常に動作していても、構成によりアンプの出力段の4つの止めネジがとても熱くなります（75度まで）。これは故障ではなく、アンプは正常に動作します。

4.4 電源の保護

4.4.1 突入電流リミッター

D-Power 05 & 1 の電源スイッチをオンに入れてから最初の2秒間で、突入電流リミッターは電源の電流量をゼロから通常値へと次第に増加させていきます。通常値は動作状況や出力レベル、スピーカーの負荷によって異なります。

4.4.2 過大AC電源電圧検知

過大なAC電源電圧を検知する機能は常に動作しています。100V動作ではおよそ138Vを超えた場合、パワーアンプの電源はオフになります。AC電源電圧が正常に戻ればソフトスタートで再起動します。

4.5 メインスイッチング電源保護

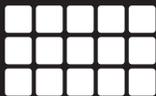
4.5.1 過電流プロテクション

D-Power 05 & 1 のメインのスイッチング電源のトランスに流れる電流量は常に監視されています。もし過電流となった場合、スイッチング電源は直ちに停止します。この状態では内部に故障が発生した可能性が高いため、他の部分にまで故障を広げないようにするための機能です。

4.6 ファン

D-Power 05 & 1 内の冷却ファンは、ヒートシンクの温度が60度以下のときは動作していません。温度が高くなった時、ファンはアンプを冷却するために動作します。一度作動すると動き続け、40度を下回ると停止します。

4. アンプの 操作と動作



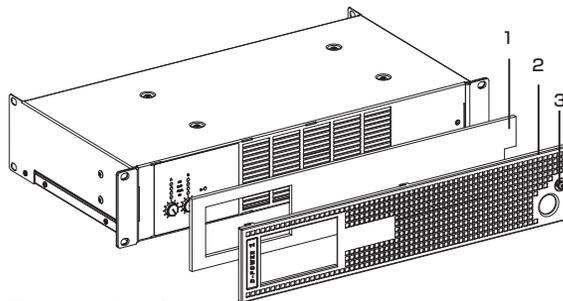
4. アンプの 操作と動作

4.7 フィルターの清掃

D-Power 05 & 1 の正面パネルにある吸気口には、取り外し可能なエアフィルターが装着されています。フィルターが汚れると冷却効率が悪くなり、結果として出力レベルが低下する事態を招きます。定期的にフィルターの清掃を行ってください。

注意：フロントフレームを外す際は、電源を抜いてください。

フィルターの清掃や付け直しをする際は、3mmの六角レンチを使用して止めネジを外します。ネジは紛失しないようにフレームの裏にある小さなプラスチック製のスペーサーで保持されています。フロントフレームを少し右にずらしてから取り外します。フロントフレームを曲げないように徐々に引いてください。



フィルターユニット

1. フォームフィルター
2. フロントフレーム
3. ネジ



5.1 症状：音が出ない

表示： On LED消灯

Signal LED消灯

Clip LED消灯

- ACプラグが差し込まれていることを確認します。
- 他の機器をそのコンセントをにつないでみて、コンセントが正常かを確認します。

表示： I-Out LED点灯

Signal LED消灯

- 入力信号が送られていることを確認し、他のケーブルも試してみます。
- ボリュームつまみの位置を確認します。

表示： I-Out LED点灯

Signal LEDは信号レベルに応じて点灯

- スピーカーケーブルが断線していないか確認します。
- 別のスピーカーケーブルを試してみます。

表示： Signal LEDが赤く点滅（プロテクトモード）

- オーバーヒートするとミュートします。適切な換気環境かどうか確認します。

5.2 症状：両チャンネルが同じに鳴ってしまう

- 前面パネルのモードインジケータを確認します。そして背面パネルのモードスイッチがステレオになっていることを確認します。
- ミキサーなどからの信号がモノではなくステレオで送られていることを確認します。

5.3 症状：音が歪む

表示： I-Out LED点灯

Signal LEDは信号に合わせて点灯

Clip LED緑色で点灯

- スピーカーの故障かコネクタの接触不良が考えられます。配線とスピーカーを順に調べていきます。必要に応じて交換します。
- 信号ソースがクリッピングしています。ボリュームつまみの位置は少なくとも半分くらいまで上げ、ソース側のレベルを上げすぎないようにします。

5.4 症状：ヒスノイズ

- アンプに入力されている信号ケーブルを外し、ノイズが入力に乗って来るものかを確認します。不規則で突発的なノイズは原因となる装置の電気的な故障が考えられます。
- ノイズフロアを低く保つために、アンプへの入力信号はクリップしない程度でフルレベルで送るようにします。
- ソースとアンプの間での信号のブーストは避けるようにします。

5.5 症状：ハウリングが発生する

- マイクロホンへのフィードバックはミキサーをコントロールすることで防止しなければいけません。マイクのゲインを下げててもノイズが続くようであればシグナルプロセッサかケーブルに問題があります。ステージ上の信号のソースからアンプまでの間で、信号線にある各装置のゲインを下げたり接続を外してみてチェックします。

5. 問題と対策

5.
仕様

型番	D-Power 1		D-Power 05	
ステレオ出力 (1kHz、THD<1%)	2Ω	—	—	
	4Ω	500W + 500W	250W + 250W	
	8Ω	250W + 250W	125W + 125W	
	16Ω	125W + 125W	70W + 70W	
モノブリッジ出力 (1kHz、THD<1%)	2Ω	—	—	
	4Ω	—	—	
	8Ω	1000W	500W	
	16Ω	500W	250W	
周波数特性(8Ω)	20Hz～20kHz、±0.2dB			
S/N比 (20Hz～10kHz、Aウェイト)	>113dB			
THD(20Hz～10kHz、8Ω)	<0.01%			
ダンピングファクター	>1000			
入力インピーダンス	7kΩ(バランス)			
ゲイン設定	26dB			
インジケータ	On、Signal、I-Out、Clip、MB			
電源	AC100V、50/60Hz			
消費電力 (電気用品安全法による)	200W		120W	
寸法(W×H×D)	483×89×252mm			
質量	5.2kg			

注意：

入力レベルが+6dBuを超える
とクロストークが発生します。
その際、Clip LEDが点灯する
とは限りません。使用環境に
よっては問題となる可能性があ
りますので、ご注意ください。